

「とっげき！ぐんぐんたんけんたい！」 (26時間扱い)

授業者 酒谷 明子 阿部 智

1 生活科の目標・第1・2学年における目標・育成すべき資質能力を踏まえた単元の評価規準

算数科の目標	具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	生活科の見方・考え方		
	身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，比較，分類，関連付け，工夫，試行，予測することなどを通して自分自身や自分の生活について考えること		
	個別の知識や技能 (何を知っているか，何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力，人間性等など (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
	活動や体験の過程において，自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴やよさ，それらの関わり等に気付くとともに，生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，自分自身や自分の生活について考え，表現することができるようにする。	身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。
第二学年の目標 第一学年及び	学校，家庭及び地域の生活に関わることを通して，自分と身近な人々，社会及び自然との関わりについて考えることができ，それらのよさやすばらしさ，自分との関わりに気付き，地域に愛着をもち自然を大切にしたり，集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。	身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。	自分自身を見つめることを通して，自分の生活や成長，身近な人々の支えについて考えることができ，自分のよさや可能性に気付き，意欲と自信をもって生活するようにする。
本単元の目標	自分たちで計画を立てて，身近な地域に出かけ，さまざまな場所を調べたり，地域の場所や人との関わりを広げたりするとともに，地域に親しみをもち，人々と適切に接したり，安全に気を付けて生活したりすることができるようにする。		
	○ 学校の周りの探検に出かけ，学校の周りには様々な場所があり，そこで働いたり生活したりしている様々な人がいることが分かる。	○ 探検で気付いたことやわかったことを地図に記入し，友達と交流することができる。	○ 探検で出会った人や場所に親しみをもち，自分から関わろうとする。
	○ 学校の周りの様々な場所やそこで働いたり生活したりしている人と自分との関わりについて気付くことができる	○ 探検を振り返り，気付いたことをもとにして次の探検のめあてをたてることができる。	○ 学校の周りの場所やそこで働いたり生活したりしている人たちと適切に接することができる。
	○ 学校の周りで働いたり生活したりしている人々の仕事や様子，思いや願いについて考えることができる。	○ 登下校時や学校の活動の中で安全に気を付けて生活しようとするすることができる。	
	評価1	評価2	評価3

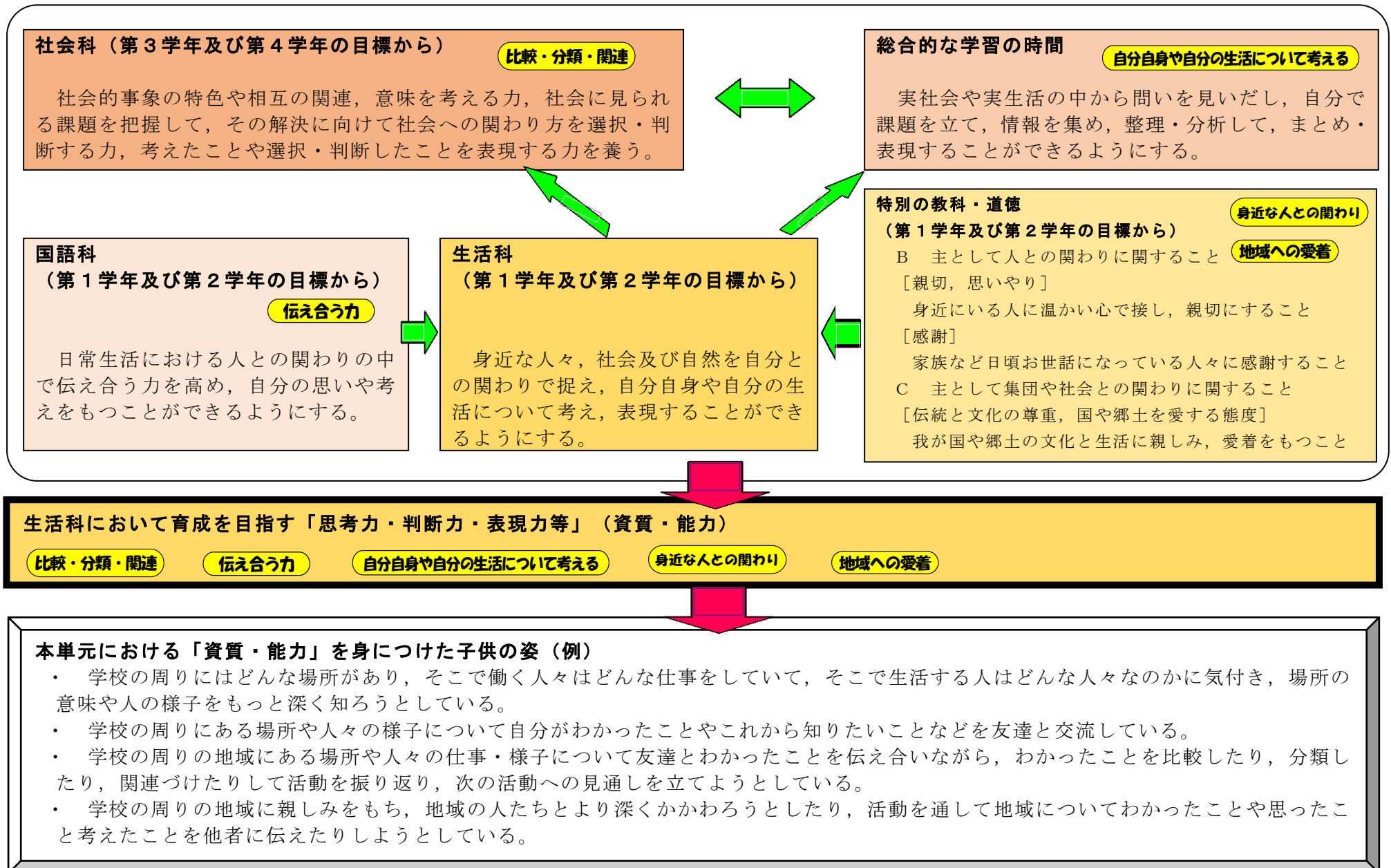
《単元について》

本単元は，学校の周辺探検を通じて出会った人や場所に対して親しみをもち，これからの学校生活においても自分から深く関わろうとする子供の姿を目指す。そのために，周辺探検を2回，視点を「場所」「人」に特化した探検を3回行い，「美原のまちにはこんなにすごい人がいるんだ」ということを子供たち自身が気付いていくことができるよう，それぞれが出会った「すごい人」を全体の「人マップ」に表していく活動を行う。人に特化したまとめをしていくことで，それぞれの人がどんな思いや願いをもって美原のまちで生活したり仕事をしたりしているのかを理解できるようにする。

学校周辺のまちの人や場所に親しをもつようになった子供は，自然と学校で学んだ視点で自宅周辺のまちに目を向けるようになることを考える。学校で学んだことの成果を自覚しながら，自分のまちについて考えることができるようになることを期待している。

2 研究との関わり

(1) 資質・能力を支える「学びの文脈」～「思考力・判断力・表現力」を中心として



(2) 「主体的・対話的で深い学び」を保障する手立て

○ 手立て1 必要感のある課題の設定ができるような発問と振り返りの設定

子供が自分たち自身の思いや願いから課題を設定することができるよう、教師が意図的な対話や応答をするといった発問の工夫をしていく。

また、毎時間の最後にその日の活動について振り返りをする場を設定し、振り返りの中から表出した思いや考えをもとに次時の課題の見通しを立てる。本時の課題の確認⇒活動⇒次時の課題設定という流れを確立していくことで、子供たちが課題について必要感と見通しをもって主体的に活動していくことができるようになる。

○ 手立て2 必要感のある対話的な学びを促す

子供たちの中で「話したい!」「伝えたい!」という思いが高まるような場を設定する。具体的には、探検するグループと探検後にわかったことを交流するグループをあえてちがうグループにする。そうすることで、お互いにまだ知らないことがあることに気付いたり、ほかの場所や人に興味をもったりし、お互いの情報を伝えたり質問したりする必要感が生まれるような場になると考える。お互いの気付きについては、わかったことを交流するグループごとの地図に記していき、視覚的にも情報の共有ができるようにしていく。

○ 手立て3 調べてきたことを画像で共有できるようなICTの活用

グループに探検に出かける際、グループごとに1台iPadをもち、自分たちが調べてきた場所や人について後日の交流の場でその画像を使って全体に発表できるようにする。

メモやノートの活用とともに、その時の様子を共有できる手段として、また、各グループの活動の振り返りや、次時の活動の課題設定をするための有効なツールとなることを期待できる。

3 単元のグランドデザイン

時	1～6	7～18	19～26
課題	美原のまちを探検しよう! (美原の町周辺探検)	発見!美原のすごい人 (場所ごと探検)	美原のすごい人はだれだ? (美原のすごい人マップ作り)
開始期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校周辺探検パート1 ・どんな場所があってどんな人がいるのか確かめる。 探検の振り返りと次時の課題設定 ○ 学校周辺探検パート2 ・どんな場所があってどんな人がいるのか確かめる。 探検の振り返りと次時の課題設定 ○ もっとくわしく見てきたい場所はないか考える。 探検の振り返りと次時の課題設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループに分かれてそれぞれの探検場所に出かける。 ICTで活動を記録 ・地図 ・ノート ・iPad による振り返り 探検の振り返りと次時の課題設定 ○ 探検してわかったことを交流する。 グループ内交流から全体交流へ ICTで全体共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人別グループに分かれて、インタビューの計画を立てる。 人別グループでの課題設定 ○ 人別グループで探検に出かけ、すごい人にインタビューする。 ICTで活動を記録 探検の振り返りと次時の課題設定
展開期	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループを作って次の学習の見通しをもつ。 場所ごとグループでの課題設定 ○ 次の探検で使用するiPadの使用方法について学ぶ。 ICT活用の方法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 探検の振り返りと次時の課題設定 ○ グループに分かれてそれぞれの探検場所に出かける。 ICTで活動を記録 ・地図 ・ノート ・iPad による振り返り 探検の振り返りと次時の課題設定 ○ 探検してわかったことを交流する。 グループ内交流から全体交流へ ICTで全体共有 探検の振り返りと次時の課題設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 美原のすごい人マップ作りをする。 お互いの情報を交流しながら地図に表す ICTで活動を記録 探検の振り返りと次時の課題設定
まとめ期	ICT活用の方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 探検の振り返りと次時の課題設定 ○ 探検してわかったことを交流する。 グループ内交流から全体交流へ ICTで全体共有 探検の振り返りと次時の課題設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 美原のすごい人を紹介する。 今までの活動の振り返りをする。 ・学習の成果を実感する。 ・子供同士による相互評価をする。 ・他者による価値付けをもらう。

本時

4 本時案 (18/26)

<p>本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の周りの場所やそこで働く人・生活している人の様子について、発見したことを友達同士で伝え合うことができるようにする。 	
<p>学習活動 (○) と子供の姿</p> <p>○ 前回の探検の様子を振り返る。</p> <p>あれは八百屋さんだね！</p> <p>ガソリンスタンドの隣にあったよ。</p>	<p>教師の支援 (☆) と評価 (◇)</p> <p>☆ 詳しい様子を思い出すことができるよう、前回の探検の様子を画像で提示し、どの子がどんな活動をしていたかがわかるような対話や応答をする。 【手立て1】</p>
<p>この前の探検で見つけたことを教えよう！</p>	
<p>○ 前回の探検でわかったことを教える時のポイントを確認する。</p> <p>八百屋さんの名前は「近江青果店」だった</p> <p>野菜だけじゃなくて魚も売っていたよ。</p> <p>○ 個人のワークシートに書かれた情報をクラスの学習グループで交流する。</p> <p>「さてんど〜る」の中には、コーヒー豆のびんがたくさんあったよ。</p> <p>知ってる！だからお店の中はいいにおいがするんだよね。ほかに何があったの？</p> <p>○ みんなに知らせたいことを全体で紹介する。</p> <p>さてんど〜るのお店の中には、きれいなセロハンテープがたくさん売られていたよ。</p> <p>美原廉売には、「ゴジラのたまご」っていう果物があったよ。</p> <p>○ 紹介を聞いて、知りたくなったことについて質問する。</p> <p>さてんど〜るは喫茶店なのに、どうしてセロハンテープが売られているの？</p> <p>ゴジラのたまごってどんな果物なの？</p> <p>聞いてこないとわからないことがたくさんあるね。</p>	<p>☆ 見つけたことを交流する時の視点を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな（何を）場所なのか どんな人がいたのか 場所の様子（何があったかなど） <p>◇ 自分のワークシートに書き込まれた情報を学習グループの友達に話している。 【評価2】</p> <p>☆ 見つけたことを発見カードに書いておき、カードをもとに話すことができるようにする。</p> <p>☆ 個々のもっている情報の違いや似ているところについて着目するよう声がけをする。 【手立て2】</p> <p>☆ その時の様子を全体共有できるように、子供たちが iPad で撮影してきた画像をテレビにつないで映す。 【手立て3】</p> <p>◇ よくわからないことや不思議だなと思うことを次の探検で知ろうとしている。 【評価2】</p> <p>☆ 今まで自分が発見したことの中でくわしく知りたいことや不思議だと思ったことがないかどうか問いかける。</p>
<p>もう一度探検に出かけて、お話を聞いてこよう！</p>	
<p>○ 今日の学習感想を発表する。</p>	<p>☆ 今日の学習についての価値付けになるような言葉がけをする。</p>